

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275600128		
法人名	有限会社グループホーム光		
事業所名	グループホーム光		
所在地	千葉県山武郡横芝光町原方2486		
自己評価作成日	令和2年11月3日	評価結果市町村受理日	令和4年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽
所在地	千葉県旭市口1004-17
訪問調査日	令和4年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

世代を超えた交流で、幼老統合ケアを目指してきている。子供たちからお年寄りが元気をもらっている姿が日常的に見られるようになってきている。昨年の夏は野菜づくりにも達し、収穫の楽しみも味わうことが出来た。今後は、より一層子供、スタッフ、利用者の三世代で園芸を通じてより交流を深め、利用者が子供たちの名前を呼べるような取り組みを行っていく。施設内に一緒に暮らす、犬の二代目はなもすっかり介護犬の役目を果たしており、一緒に長生きしてもらいたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長引くコロナ禍で、行事やお祭り等が中止、延期になって、大勢での外出や外食事等も制限される中、職員間で連携を取り、生活の中での小さな目標を立て楽しく行っていけるようサポートしている。同じ敷地内に学童・放課後デイがあり、併設には通所介護があり日々の生活の中で、馴染みの人や子ども達との交流もある。天気の良い日は、敷地内の畑で野菜作りや庭での食事等を楽しむことが出来ている。施設内に一緒に暮らす二代目の犬は、介護犬の役目を果たし癒しを与えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境の下で 利用者がその能力に応じて機能訓練を行うことにより、可能な限り自立した生活が営めるように努めている。	会議等で理念の共有が図られている。ユニットリーダーの連携が取れ、職員と利用者一人ひとりに寄り添い対応している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域行事の参加はかなわないが施設内の季節の行事を計画実施しその様子を家族に広報などで知らせている。	長引くコロナ禍で、地域行事等の中止や延期の中、職員のアイデアで施設内の季節の行事を実施したり、少人数での車中花見など工夫をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方が施設のことを質問された折に、認知症の状況について説明し、介護の相談等にも生かしている。また、利用者との散歩中に挨拶を通じて理解を求めようとしている。		
	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では 利用者の行事だけの報告には留まらず、委員を含めた研修も行いながら より良いサービスの提供を心がけている。	運営推進会議等も書面やリモートで実施され、感染症対策を取りサービスの質の向上に今まで以上に全職員で取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退所の状況は逐一報告している。また、利用者の紹介を戴いたり協力関係を築いている。	会議、研修等が書面やリモート等になっている中、電話や出来る限り担当者に面談し関係構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	多動な利用者の対しては、職員が徹底した見守り介助を行い身体拘束は実施していない。	身体拘束は行っていない。会議の中でも身体拘束についての勉強会も実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各種リモート研修を通じ、虐待が見過ごされないように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表が市民後見の研修を受講し、職員に都度、学ぶ機会を提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には職員が説明を行い、不明な点に関しての質問等には、十分に納得行くよう答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のメンバーに利用者の家族にはいつか頂きながら、町や、地域包括支援センターに、意見要望を伝えてもらっている。面会時ご家族より意見や希望を引き出し日頃の介護に反映させる	長引くコロナ禍で中々今までの様に、面会等が思うようにできない中、、電話や写真等を送ったり面会時には、意見や要望を聞き、支援に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議を月に一回設けて、利用者の状況と合わせて、職員の意見や提案を出している。また、反映させている。利用者の状態や服用薬の変更等について設問し再度確認を行う。	ユニットリーダーの連携で月一のケア会議等で、利用者の状況や職員の意見や提案等を出しあい、反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心ややりがいは職場が楽しくなければ持てないので、和やかで笑いのある職場環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケア会議で職員が集まった際、接遇や感染症等の勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの感染状況等 電話メール等で 情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	多面的な見方ができるよう、管理者、スタッフ、ケアマネなど色々な形でのコミュニケーションをとるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前によく話し合い、希望があれば体験入所等を行い、本人、家族の納得のできる状況での入所を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	直接に施設の入所ではなく、デイサービスを受けたり、入所を体験したりと、色々な選択があることを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度が上がるに従い、暮らしを共にするという関係が難しくなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	テレビ電話等で家族と顔を合わせられるような機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	年賀状や暑中お見舞いなどを通じて 交流が持てるように援助している。	感染症対策を万全にして、短時間の家族や友人との面会や馴染みの店での買い物等の支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が一人、部屋の中でのいるような場合は、声掛けをして他の皆さんと一緒に居られるようにしている。ほとんどの皆さんが、日中はフロアで過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方やその家族にも時節に電話し見守りを継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員、家族、本人の情報を密にして、把握に努めている。	日々の支援の中で気付いた時は、アイパッドへ記入し職員間で周知をしている。家族とも話し合対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や介護支援専門員からの情報を踏まえて把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の様子等タブレットに入力し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会に来た時や、電話、手紙などで家族に相談するようにしている。毎月のケア会議をモニタリングと位置付けて、利用者一人ひとりの状況を全体で共有する機会ともなっている。利用者一人一人のモニタリングを書面として職員間に周知し話し合いの場を持つ。	ユニットリーダーの連携で月一のケア会議等で、利用者の状況や職員の意見や提案等を出しあい、反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットでの入力を行っており、逐一、個々の状況や出来事が逐一把握で知る。また、月に一度ケア会議を開き、個別のケアの実践・結果などを共有し、介護に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	学童に加えて、障がい児童の受け入れ、放課後等デイサービスも開始し、富山型デイサービスのような施設運営に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア団体の協力をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の往診の他随時受診できるようにしている。また治療方針は利用者本人の気持ちや家族の意向にそえるようにしている。	月一回内科の往診診療が有り、他にも随時受診できる体制がある。本人や家族との情報共有ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の記録や気づき等は、看護職が出勤してきた際に伝え、適切な受診や処置が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	町の東陽病院とは、密に連絡を取り、入院時や、空室が出た際の情報提供を行い、連携が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師や看護師、家族と話し合い、看取りの指針や同意を得て、同意書などを作成、保管している。頻回な巡視、バイタルチェックを行い利用者の状態を観察していく。小まめな補水と食事を提供する。	入所時に重度化や終末期に向けた見取りや方針の同意を得ている。ケアについても職員間で話し合って実践に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	適時、救急救命講習等を地元消防署に依頼し、職員の対応力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等は行っているが、車イス利用の利用者も多く、夜勤帯の時間に災害が起こった時の対応力に不安が残る。近隣の住民の参加は叶わなかったが、夜勤者その他の職員で夜間避難訓練を行う。	避難訓練等は実施されている。車イス利用の利用者が増えており、夜間訓練等の対応について日勤者の協力で実施している。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	守秘義務を徹底し写真の掲載については同意書を頂く。	職員間で内部研修等行われ、守秘義務徹底、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	パーソンセンタードケアの考えを用い利用者の思いを汲み取る。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床時間などもなるべく本人のペースを優先するよう心掛けているが、トイレ介助など職員側の都合によって行動してしまうことはある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員に資格者がいるのでホームで無料で理容・美容をおこなっている。また、協力して戴ける方々からバザーでの洋服などを送っていただき、利用者が有効に利用できるようにしている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の監修した食材を注文し、調理の職員が好き嫌いを把握し、利用者の希望に添うようにしている。準備の手伝いなどではできるだけ参加を促すようにしている。季節感を感じられる献立を供する。利用者からのリクエスト献立をお出する。	季節の食材を使い変化有る献立と、出来る方のはお手伝いをお願いし一緒に作ったり片付けもお願ひしたり、利用者からもリクエスト献立もお出している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録として残している。栄養バランスにヨシケイ食材を利用しながら食事を提供し、状態に応じて食べる量などを勘案している。食事は一人一人に応じて食べやすい形態にしてある。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が食事後口腔ケアを行う他、定期的な訪問歯科が来所し口腔ケアを行っている。誤嚥性肺炎などの防止に効果を上げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ利用から、ポータブルトイレ利用に変更になった利用者もおり、削減になった例もある。尿意の分からない利用者については、一層のパターンの読み取りが必要である。	排泄の自立支援を目指しており、おむつ使用からポータブルトイレ利用に変更になった利用者もいる。排泄パターンの把握も努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を飲んだり、食物繊維の多い食べ物を取るよう工夫し、予防している。適度な運動も勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に小人数で毎日行っている。順番はできるだけ本人の希望を取り入れてはいる。季節を感じられるようにゆず湯や菖蒲湯に入って頂く。入浴剤を工夫したり温泉の宅配を利用し利用者さんに楽しんで頂く。	入浴は毎日行われ、順番は本人の希望等を確認し実施されている。柚子湯、菖蒲湯等季節を感じられるお風呂や温泉の宅配を利用したり、外出できないが楽しく入浴が出来る取り組みをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れた様子だったり、夜間に眠れなかった場合は、職員が付き添い安心するよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬の変更等タブレットに入力しケア会議で再確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜づくり、音楽療法、おやつ作り等々、利用者の気分転換になるような支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように	近隣の花見と近隣住民宅にて収穫体験をさせて頂く。古くからの友人宅への訪問、希望者は美容院へ同行する。	地域の行事やお祭り等は、延期や中止になっており、近所お花見や庭でのお茶等楽しく過ごせるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては認知症による症状がない場合は本人所持を支援している。希望者は混雑を避けて感染症対策を徹底して買い物に同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば電話をしたり出来るよう支援している。携帯電話の所持や年始の年賀状なども本人が書けるよう支援している。絵手紙の講師を依頼し、暑中見舞いを書いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の清掃は毎日行っている。季節の植物を飾ったり、部屋の温度が適温になるよう調節している。清掃ボランティアを依頼し徹底した掃除を行う。	共有空間には季節の花を飾ったり、施設内で犬を飼っており、利用者からも可愛がられて癒しになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が同じテーブルになるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から利用してきた家具や調度品を利用するよう勧めている。また、食器などは個別の使い慣れたものを使うようにしている。常に快適に過ごせるように居室内の整理整頓を行っている。	居室内は以前から使用していたものが置かれ、日常使う食器類も今までの物を使用している。部屋の中も定期的に清掃され本人もできる事は手伝ってもらい整理整頓をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール及び廊下にセキュリティカメラを設置し、安全に配慮しながら、遠隔からでも見守れる配慮を行っている。		